

NSPA

JAPAN

発行人・金原 優
編集・広報委員会



The Natural Science Publishers' Association of Japan

自然科学書協会会報

2013 11/15 NO. 4

<http://www.nspa.or.jp/>

一般社団法人 自然科学書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 神保町 101 ビル 1階 TEL 03-5577-6301

新理事長就任のご挨拶

理事長 金原 優

新専務理事ご挨拶と抱負

専務理事 南條光章

新専門委員長ご挨拶と抱負

東京国際ブックフェア報告

ほか

新理事長就任のご挨拶

理事長 金原 優



員社（者）の出版活動を活性化すること
は勿論ですが、その出版活動と流通促進
を支える法的問題、制度的問題、経済的
問題を解決していかなければなりません。
自然科学書協会は専門書に特有な様々な
問題に取り組み、出版環境の整備に取り
組みます。

自然科学書協会は今期、販売・出版
著作・出版権、研修、広報、総務の各常
設委員会に加え、税制・再販流通特別委
員会を設置しました。販売・出展委員会
は国内、国外で開催される国際レベルの
ブックフェアにおける出版物展示、ならび
に全国主要書店と共催で集中的展示即売
会を開催し、自然科学書の周知と流通促
進活動を行います。

営の基本事項の管理業務を行います。今
期設置した税制・再販流通特別委員会は、
特に来年四月に予定されている消費税率
変更に関する諸問題に取り組みます。殆
どの出版物は再販制度に基づいて出版物
そのものに表示されている定価で販売され
ていますが、消費税率の変更に伴って出版
物への価格表示をどのように取り扱うか、
また、主として雑誌の年間購読で税率変
更の前後にまたがる購読料の取り扱い等
は専門書にとつて大きな問題であり、自
然科学書協会として早急に取り組みなけ
ればならない課題です。

七月一八日（木）に開催された自然科
学書協会の総会において、長年協会の代
表として手腕を発揮された後藤理事長の
後を継いで理事長に就任することになり
ました。難題の多い出版界において大役
であり、どこまでこの重責を果たせるか分
かりませんが、精一杯努力する所存ですの
で会員各位ならびに業界、関係団体のご
指導とご協力をお願い申し上げます。
出版界の中でも自然科学書協会は創立
六〇余年を経た歴史のある業界団体であ
り、その間、理学・工学・農学・医学・
家政学の五分野における専門書発行と流
通にかかると様々な問題に積極的に取り組
んで参りました。自然科学系の専門書は
日本の科学技術研究に不可欠な知識と情
報を日本の研究者に提供し、その研究の
進歩と共に歩んで参りました。今日、日
本の科学技術の研究レベルは世界の最先
端にあり、今後も進歩・発展し続けてい
くものと思います。こういった専門情報
を研究者に適切にお届けするためには会

著作・出版権委員会は自然科学書に特
有な複写複製問題、著作権ならびに出版
者の権利保護問題、著作権法改正問題等
に取り組みます。特に自然科学書は自然
科学分野の研究促進に不可欠な情報であ
り、権利保護と同時に部分利用、複製利
用への適切な対応も重要です。その接点
を探り、著作者と利用者双方の利益のた
めの方策に取り組みます。研修委員会は
自然科学領域における一般読者向けの講
演会やセミナー、ならびに読者が気軽に
参加できる書店店頭におけるサイエンスカ
フェ等の企画と運営を行い、読者に自然科
学に興味を持ってもらい、自然科学に親し
んでもらうための活動を行います。広報
委員会は会報の発行、ならびに協会内の
様々な活動を読者に周知し協会活動のPR
に取り組みます。総務委員会は協会連

自然科学書協会としてこれまで以上に
積極的に取り組まなければならぬ問題
は出版の電子化です。出版物を電子媒体
で利用したいというのは時代の流れであり、
読者の当然の要請として出版社（者）は
受け止めなければなりません。特に自然
科学書はその読者対象が研究者である以
上、様々な情報を素早く検索し、研究者
の求める情報を適切に提供できる電子出
版の形態を作り上げることが出版社（者）
ならびに自然科学書協会に与えられた重
要な課題です。電子媒体でコンテンツを
提供するという技術的問題は既に解決し
ていますが、問題はその利用条件、コン
テンツ保護、価格設定等です。そのため
には出版社（者）ならびに利用者間で更
に話し合いが必要であり、自然科学書協
会としては適正な専門書の電子配信へ向
けて検討を重ねていきたいと考えています。
引き続きご支援を賜りますようお願い申
上げます。

新専務理事ご挨拶と抱負

専務理事 南條光章

この度の当協会役員改選にあたりまして、専務理事を仰せつかりました。もとより浅学非才の身であります。お役目をお引き受けいたしましたからには、新役員と力をあわせまして当協会のさらなる発展のため、微力ながら務めてまいりたい所存です。会員各社の皆様におかれましては、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何とぞお願い申し上げます。

さて、当協会は昨年六月一日をもちまして一般社団法人の許可を受け、新たにスタートいたしました。また、三年後の平成二八年には創立七〇周年の節目を迎えます。その間、公益目的支出計画に則つて、移行期間中の責務を果たしていかなくてはなりません。会員各社の皆さまのご理解、ご協力をいただきながら、粛々と実行してまいりたいと存じております。

当協会は理学・工学・農学・医学・家政学の各分野の出版社が集い、その時々々の問題や課題を解決しつつ、また一方で会員同士の懇親にも力を注ぎつつ、存在感のある業界団体としての地歩を固めてまいりました。しかしながら、昨今の当協会を取り巻く問題や課題は、強固な繋がりがだけでは解決できるものばかりではなく、時としてそれを推し進めていく強力なリーダーシップと、その判断が以前にも増して必要であると感じております。このたび就任された金原理事長は、日本書籍

出版協会副理事長の重責を務めておられますが、当協会の新役員とともにその問題解決のために、十二分に力を発揮されるものと確信しております。

当協会では今期より、専門委員会の一つであります国際委員会を廃止して、五委員会体制でスタートいたしました。この専門委員会活動が、最も重要な活動であることは言うまでもありません。各委員長からは本誌面で抱負を語っていただいておりますが、積極的な委員会活動を通して、当協会会員各社のメリットが存分に発揮されるよう期待しております。また、新たに新任役員五名も加わりましたことで、新鮮な息吹を注いでいただけることを願っております。

現在、当協会会員社は六九社です。当期より金原理事長のご意向で会員集会の機会を増やして、当協会や業界活動への取組みをご説明していただくの趣旨です。当協会役員だけでなく、会員各社としてのご協力も当然ながら重要であります。会員各社の皆様におかれましては、何とぞ積極的に当協会活動にご協力、ご参加を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

新専門委員長ご挨拶と抱負

●総務委員会

今期の総務委員長を拝命いたしました。若輩かつ浅学で委員長のお器ではございませぬが、最善の努力を尽くし責務を遂行し

たいと考えております。幸いなことに、これまで永きにわたり総務委員長をお勤めいただいた産業図書出版社長が、担当常務理事として引き続き総務委員会に関わっていただくこととなりました。加えて副委員長の裳華房の吉野社長、さらに委員として金原出版の古谷社長にご就任いただきました。総勢四名ではありますが、若手からベテランまで素晴らしいメンバーにも恵まれました。

来る一〇月一七日に第一回の総務委員会を開催し、今後の活動方針及び総務委員会として行うべき事、改革できることなどを確認いたしました。六〇有余年の歴史ある協会ゆえ、これまでの流れを守らねばならぬ所は多々あります。しかしながら一般社団法人化により、これまで以上に収支のバランスを要求されることになりましたので、協会の財政安定化に向けた動きも提案していきたいと考えております。

総務委員会が主体となる案件としては、一二月五日の年末会員集会・懇親会（於：東京會館）の開催、またその際に配布する会員名簿の作成、二〇一四年春の英文会会員名簿の作成、同年五月の予算案、決算案の作成などがあげられるかと思っております。順次真摯に取り組み円滑な協会活動が行えるよう全力で努力してまいりますので、会員各社の皆様のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。（委員長 長 滋彦）

●広報委員会

この度、前期に続き広報委員長に留任しました。私に高所大所からの確かなアド

バイスいただける宮部担当常務理事と個人的で有識な九名の委員で運営して参ります。

さて、当委員会では二〇一二年に一般社団法人の認可を得て、協会の活動内容や存在意義を今まで以上に会員各社はもちろんのこと、業界全体願わくば一般国民にも広く告知をして行く使命があります。以下の三点が当委員会の主な活動内容となります。

○自然科学書協会講演会（年一回）

○会報の発行（二月、四月、七月、一〇月の年四回）

○関係メディアを通じての協会活動のPR活動

二〇一二年と二〇一三年の講演会は、新たな試みとして地方で開催される自然科学書フェアと分離して、いずれも七月に日本出版クラブ会館において独自開催をしました。お陰様でいずれも百名を超える参加者で、アンケート結果からも講師や講演内容に関して、まずまずのご満足いただくと結果となりました。今期の講演会も同様のことを考えております。会報につきましても、会員各社により有益な情報をご提供できるように工夫して参ります。またPR活動もまだまだ当協会に関する認知度は低いので、積極的にインターネットや業界紙等を通じて、広く協会活動をPRしていき所存です。

つきましては、何卒皆様方のご理解とご協力・ご支援をお願い申し上げます。

（委員長 牛来真也）

●著作・出版権委員会

本委員会の討議すべき役割の内容は「著作権に関わる問題」「出版者の権利のあり方」「出版契約の研究」「複製・転載・引用に関する問題」など多岐にわたっています。特に「出版者の権利の望ましいあり方」は自然科学書という専門書を出版する当協会会員社にとっても大きな関心事であります。まさにこの時期に文化審議会著作権分科会出版関連小委員会では電子出版権の創設に向けて検討を重ねており、「中間まとめ」が公表されたことで現在進行形であります。この一年のうちにその方向性が見えてくることと思いますが、本委員会でも十分に議論・検討をしていきたいと考えます。

また当協会の会員各社が大きな使命感をもって対処してきました「複製」いわゆる「違法コピー」への対応については、日本複製権センター(JRRC)・元日本複製権センターと出版者著作権管理機構(JCOPY)とによりその役割を果たしていますが、十分ではありません。現在では電子媒体複製の問題は避けて通れない急務の課題となっていますが、これに対しJCOPYでは使用料規定の改定を検討しています。また国立図書館・大学図書館などでの複製に関しても検討・対応を必要としています。なお各会員各社における個々の問題事例も起きていることと懸念されますが、遠慮なくその都度ご報告・ご相談をいただき当委員会でも対応できることは進めていきたいと考えます。

以上、自然科学専門書を出版する特殊

性を保ちつつも、出版界全体との調和も図つていきたいと、会員各社の皆様のご協力をお願いいたします。(委員長 及川 清)

●販売・出展委員会

この度「販売・出展委員長」を拜命致しました。販売・出展委員になられた会員各社の営業責任者のご協力をいただきまして、自然科学書の普及に力を注ぎたいと存じます。

当委員会の主たる活動は、七月に開催される「東京国際ブックフェア」に参加すること、「自然科学書フェア」を国内のいずれかの都市で開催すること、フランクフルトおよび北京で開かれる国際ブックフェアに出展し海外に日本の自然科学書を紹介することです。

「東京国際ブックフェア」はその形態を変化させながらも、来年二二回目を迎えます。残念ながら著作権取引は低調ですが、多くの方に足を運んでいただき、会場は盛況です。まずは来場者に応える意味でも、より多くの自然科学書を紹介できればと考えています。「自然科学書フェア」は二〇〇九年に仙台・京都で開催したのがはじめて、以降国内各地で開催しています。今年も札幌と名古屋で開催しました。自然科学書の地方での普及にそれなりの成果を上げています。海外でのブックフェアは、国際委員会の廃止に伴い、当委員会でも担当することになったものです。日本の科学技術の高さを書籍を通じて海外で紹介し、著作権取引に結び付けるべく進めています。フランクフルトは出版文化

国際交流会、北京はトーハンの協力のもと、行っています。

これらの活動は、当協会の公益活動の一翼を担っているものであり、科学技術立国日本の活動をさらに進化させるものであることを認識して展開したいと思います。会員各社のみならず多くの自然科学書出版社のご協力をお願い致します。(委員長 筑紫恒男)

●研修委員会

この度、第六三期/第六四期の研修委員会委員長の役割を拝命いたしました。

実は、第五九期/第六〇期でも研修委員長を務めさせていただいており、いわば出戻り委員長と相成りますが、宮部担当常務理事・黒田副委員長はじめ各委員の皆様のお力を借りながら任務を遂行いたします所存です。

研修委員会は、会員各社に役に立つ研修会・勉強会を出版梓会、関係団体とも連携しながら企画・開催いたします。また、自然科学を読者の皆様に身近なものと感じていただけるよう、昨年も企画・開催され好評を得ました「サイエンスカフェ」を文科省や書店様と提携して、今期も継続して企画・開催できるようにしたいと思います。

さて、去る二〇月一七日に第一回の委員会を開催いたしました。各委員の皆様も当委員会活動に対し、活発な意見交換がありました。その中でも、この一、二年間での書籍・雑誌の電子化・配信サービスを含む情報伝達の迅速化は目を見張るもの

があり、そこで、実際に運用されている出版社様を講師に、具体的事例を挟みながらの研修会を開催することにいたしました。詳細につきましては改めてご報告いたします。

また、長前委員長が企画されました「国立国会図書館参観」ですが、おかげさまで早々に定員をオーバーするお申し込みをいただきました。この件につきましても年明けには第二弾を企画したいと思っています。

今後、会員各社の皆様からのご意見・ご希望をお伺いしながら、委員会を運営・活性化したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。(委員長 曾根良介)

●税制・再販流通特別委員会

税制・再販流通特別委員会は再販問題が議論されてきたときに設置されたことはありましたが、再販制度が当面存置となり、制度が継続していることを受けて一旦解散となりました。しかし来年四月に消費税率が現行の五%から八%に変更となることと予定されており、更に二〇一五年一月には更に一〇%への変更が予定されています。このことを受け、特に出版物は再販制度に基づいて流通しており、出版物自体に定価が表示されているという他の商品には見られない特性があることから、税率変更に対する対応は業界全体の問題であるとしてこの委員会の設置を決めた次第です。

価格表記の問題は消費税率変更に伴う

経過措置として、現在は税込の価格表記が義務付けられていますが、来年四月から四年間は総額表示義務が免除され、本体価格+税の表示が認められました。従って当面の問題は回避できます。しかし経過措置における主として雑誌の年間購読で税率変更の前後にまたがる購読料の取り扱いは複雑であり、来年四月以降も旧税率が適用になる部分もあります。旧税率時に発行された雑誌が来年四月以降に販売される場合も旧税率という経過措置は廃止になりましたが、その他の経過措置の運用によっては書店店頭では混乱が起きるかもしれません。

こういった経過措置上の取り扱い等は専門書に特有の問題であり、自然科学書協会として早急に取り組まなければならぬ問題です。
(委員長 金原 優)

東京国際ブックフェア報告

去る七月三日(水)から七月六日(土)までの四日間、東京ビッグサイト西ホールにおいて「第二〇回東京国際ブックフェア」(TIBF二〇三)が開催されました。今年はいくつかの開催日程より一日前倒しになり、水曜日から土曜日の開催でした。当協会は、例年と同じく三・五小間のブーススペースで出展し、展示・販売を行いました。

今年の書籍・雑誌の出品冊数は、協会加盟社のうち六〇社からの出品があり、総展示冊数は前年並みの二、五三九冊でした。



当協会ブース風景

た。商品展示は各分野別に行いましたが、今年も特別展示を行いました。展示内容は、震災復興支援の取り組みの一環として「震災復興関連書」コーナーとしました。エネルギー、防災、耐震建築、都市計画等、多岐にわたる関連書を展示しました。また、今年もご来場された読者の方へのサービスを行いました。毎年好評を博している、抽選による図書カードのプレゼントと、会員各社より提供されたオリジナルノベルティのプレゼントを実施しました。

会期四日間の主催者発表による来場者数は、併催の「国際電子出版EXPO」などを含めて六二、五七〇人で、昨年の六六、二五人に対して約五%減少し、当

協会ブースでの売上合計は、四一五冊、二四万円余りと昨年を若干ですが下回る結果となりました。会員各社の皆様のご協力に感謝申し上げます。
(オーム社 高田光明)

北京国際ブックフェア報告

第二〇回北京国際図書展示会(BIBF二〇三)が、テーマ国をサウジアラビアとして八月二十八日(水)から九月一日(日)までの五日間、北京市「中国新国際展覧センター」にて開催されました。今年も日本事務局の配慮により当協会ブースとしてニコマが用意され、当協会会員各社のうち二八社から二九四冊の書籍が出品されました。(昨年/二二社二七九冊)

当協会ブースには、主として中国の出版社が初日から多数来場し、展示書籍を熱心に閲覧し、翻訳するかどうかを検討していました。具体的な問合せがあった際は、トーハン担当者を紹介することで対応しました。また、会員各社の目録は、ビジネスデー二日目にはほとんど無くなってしまふ状況でしたので、来年から部数を増やした方がよいと感じました。

全体的な日本の出展状況は、日中間係や環境問題の影響からか、昨年よりブース数、規模ともに縮小した印象を受けましたが(日本事務局の報告では二ブース増加・出展社数は一社減)、日本を大きくアピールする共同スペースが新たに設けられ、こちらも連日商談で大賑わいでした。



当協会ブース風景

昨年九月以降の中国における日本への抗議行動や大気問題等で、個人的には今年のBIBFへの出張はかなり気を採りましたが、会期が近づくにつれ、それらの問題は大方落ち着きを取り戻し、昨年と変わらない北京市内の雰囲気になりました。また、二九日と三〇日は北京では本場に久し振りだという晴天に恵まれ、爽やかな風も吹き、初秋の北京を堪能することが出来ました。
(メジカルビュー社 三澤 岳)

自然科学書協会フェア(札幌報告)

～紀伊國屋書店札幌本店～
(期間・六月一日(土)・二日(日))
自然科学書フェアの企画を戴いた時、真つ

先に思い浮かんだのは「一般読者も読める自然科学書を主旨にしよう」でした。

紀伊國屋書店札幌本店は、常に、「専門書を中心としたアカデミックな読者層をターゲットとした戦略」を意識しています。近隣に北海道大学が控えており、弊社営業部のお得意先からの要求も多種多様であることが、戦略を決める大きな要因となっています。

また、店舗のイベントとして「北大サイエンスカフェ」、「北大人文学カフェ」、「室大テクノカフェ」、「東海大学ヒューマンカフェ」等も定期的に開催しています。

棚では、自然科学書はもちろん、医学看護書、法律、経済経営、人文書等々の需要も多く、常に死筋在庫と活きた流通



紀伊國屋札幌本店の風景

在庫の入れ替えを行っています。また、教養新書も首都圏店舗にも勝る需要が多いには驚きます。

今回、自然科学書協会会員社の四七社様のご協力で約一、五〇〇冊の出品を頂きました。さらに、協会のご尽力により期中三回の「サイエンスカフェ」の開催に漕ぎ着けました。

『どうしてモノは壊れるのか』、『中山久蔵』から「ゆめびりか」、『北海道の新しい狩猟文化』と様々なテーマでありましたが、その内容は決して難解ではなく、より身近な内容で九〇分の講演時間がアツと言う間に終了し、聴衆者も満足気でした。

専門書は専門書の売場に固執することなく、まだまだ一般読者へ自然科学書を売り込めるチャンスがあることを確認しました。(紀伊國屋書店札幌本店 金井和明)

自然科学書協会フェア(名古屋)報告

三省堂書店名古屋高島屋店
(期間・九月六日(金)～一〇月四日(金))

愛知県は、自動車産業を中心とした幅広い産業が集積しており、世界有数のモノづくり拠点を形成しています。そういった背景も踏まえ、一四年前の開店以来、理工書を中心として法経書・人文書・医書看護書などの専門書は、売上の大きなシェアを占めてきました。しかしながら、今まで専門書の大掛かりな催事を実施する事ができませんでした。



三省堂書店名古屋高島屋店の風景

この度、お話を頂いた自然科学書フェアは、開店以来、売れ行き良好書を展開してきた『ベストセラー』コーナーに、初めて専門書のフェアを行いました。

理学・工学・農学・家政・コンピューター分野の関連書籍 約六千点を一堂に展示し開催中は、普段は専門書コーナーにお立ち寄りにならない方も多くお見受けいたしました。

期間中の売上は予想を上回る結果となり、特に理工書の前年比(二〇・七%)を記録し、元売場の活性化に大きく貢献しました。期間中に二〇冊以上販売する書籍が何点もありました。元棚で専門の方には売りづらいが、専門の知識を分かり易く読めるという点で一般の方を巻き込んだシナジー効果があったようです。

また、名古屋地区で定期的に行っている『サイエンスカフェ』も、フェアと連動し、一〇月一九日に中部大学の津田先生によって『食品の「色」を科学する』というテーマで開催することができました。

今後も、今回の催事を踏まえて、お客様のニーズに合った自然科学書の品揃え強化につなげてゆきたいと思っています。

(三省堂書店名古屋西エリア 西尾雅人)

出版平和堂功労者顕彰会報告

一〇月四日(金)の正午より、神奈川県箱根町にある出版平和堂にて、第四五回出版功労者顕彰会が執り行われました。あいにくの曇天のやや肌寒い中の式典となりました。自然科学書協会の会員社の新顕彰者は次のお二方です(歿年月日順)。

佐藤 政次 様(オーム社)
吉野 達治 様(養華房)

当協会は維持団体のひとつであり、当協会を代表して金原理事長が出席されました。

一部は各維持団体の代表者によるご挨拶・新顕彰者名の奉告、献詞に続き、参加者による献花が行われました。

二部は場所を箱根ホテルに移動し、顕彰者の方々への敬意と感謝の念を込めて献杯をし、ご遺族・関係者の方々との懇親会となりました。式典は滞りなく閉会となりました。(広報委員会)

第六三期／六四期役員（＊は新任）

〈理事長〉金原 優（医学書院＊）
〈専務理事〉南條光章（共立出版＊）
〈常務理事〉宮部信明（岩波書店）
飯塚尚彦（産業図書＊）
小立鉦彦（南江堂＊）
伊藤富士男

（農山漁村文化協会＊）

〈理事 事〉朝倉誠造（朝倉書店＊）
大畑秀穂（医歯薬出版）
竹生修己（オーム社）
曾根良介（化学同人）
長 滋彦（技報堂出版）
筑紫恒男（建帛社）
牛来真也（コロナ社）
吉野和浩（裳華房＊）
後藤 武（彰国社）
黒田拓也（東京大学出版会＊）
梅澤俊彦（日本医事新報社＊）
池田和博（丸善出版＊）
森田 猛（緑書房）
及川 清（養賢堂）
田中久米四郎（電気書院＊）
山本 格（培風館）
大谷健美（文化産業信用組合）
朝倉邦造（朝倉書店＊）
平田 直（中山書店＊）
山口雅己（東京大学出版会＊）
本郷允彦（南江堂）

第六三期／六四期専門委員会委員

●販売・出展委員会
〈担当常務理事〉伊藤富士男
（農山漁村文化協会）

〈委員長〉 筑紫恒男（建帛社）
〈副委員長〉 竹生修己（オーム社）
池田和博（丸善出版）

〈委員〉 上原達史（医学書院）・蛭間智則（医歯薬出版）・大橋俊彦（井上書院）
高田光明（オーム社）・當山匠人（海文堂出版）
吉原寿和（化学同人）
石川省二（金原出版）
木村邦光（共立出版）
長 範彦（技報堂出版）
野村 誠（金芳堂）
姫野尚之（建帛社）
細谷 淳（恒星社厚生閣）
秋浜直治（コロナ社）
梅原比斗志（シーエムシー出版）
北川千晃（実教出版）
宮内耕次（裳華房）
御園英伸（誠文堂新光社）
山内 裕（第一出版）
中村光志（電気書院）
諸星安紀（東海大学出版会）
服部佑弥（中山書店）
清水 豊（南江堂）
馬場一嘉（日本工業出版）
福田徹哉（農山漁村文化協会）
石田 聡（文永堂出版）
二村忠彰（丸善出版）
三澤 岳（メジカールビュー社）
西村直己（養賢堂）

●著作・出版権委員会

〈担当常務理事〉 小立鉦彦（南江堂）
〈委員長〉 及川 清（養賢堂）
〈副委員長〉 曾根良介（化学同人）
梅澤俊彦（日本医事新報社）

〈委員〉 川口達也（朝倉書店）
金原 優（医学書院）
天野徳久（医学書院）
吉田宇一（岩波書店）
望月登志恵（オーム社）
小坂啓之（海文堂出版）
山口啓子（学窓社）
飯塚忠夫（鹿島出版会）
日比野元（共立出版）
太田 博（杏林書院）
宇山閑文（金芳堂）
根津龍平（建帛社）
御園生晴彦（サイエンス社）
鈴木正昭（産業図書）
平沢 健（実教出版）
小野達也（裳華房）
橋本成一（昭晃堂）
渡辺嘉之（総合医学社）
横井 信（南江堂）
馬場一嘉（日本工業出版）
福田久子（北隆館）
角谷裕通（北隆館）
安平 進（丸善出版）
羽貝雅之（緑書房）
金子浩平（メディアカルサイエンス・インターナショナル）
石田昇司（森北出版）
嶋田 薫（養賢堂）

●研修委員会

〈担当常務理事〉 宮部信明（岩波書店）
〈委員長〉 曾根良介（化学同人）
〈副委員長〉 黒田拓也（東京大学出版会）
〈委員〉 山田貴史（化学同人）
潤賀 浩明（共立出版）
宇山閑文（金芳堂）
筑紫和男（建帛社）
木下敏孝（サイエンス社）
都築康人（彰国社）
宇野文博（同文書院）
齊藤 淳（培風館）
石黒健治（緑書房）

●広報委員会

〈担当常務理事〉 宮部信明（岩波書店）
〈委員長〉 牛来真也（コロナ社）
〈委員〉 吉原 隆（家の光協会）
桑原 正雄（岩波書店）
竹西素子（オーム社）
稲沢 会（共立出版）
矢吹俊吉（講談社サイエンスティフィク）
大井隆之（コロナ社）
松田和貴（電気書院）
遠矢良太郎（南江堂）
増田素美（丸善出版）

●総務委員会

〈担当常務理事〉 飯塚尚彦（産業図書）
〈委員長〉 長 滋彦（技報堂出版）
〈副委員長〉 吉野和浩（裳華房）
〈委員〉 古谷純朗（金原出版）

●税制・再販流通特別委員会

〈委員長〉 金原理事長
〈副委員長〉 南條専務理事
〈委員〉 伊藤常務理事・池田理事

●出版者著作権管理機構（JCOPY）
〈理事 事〉 小立常務理事・及川理事
〈運営委員〉 小立常務理事・及川理事・曾根理事・梅澤理事

●出版平和堂委員会（日本出版クラブ）
〈委員〉 長理事

※国際委員会は廃止されました。これにより海外の展示関連は販売・出展委員会、英文委員会簿は総務委員会が担当します。

【第六三期理事会・委員会開催一覧】
（二〇三年六月～〇月）

- 理事会
 - 六月二〇日（木）六月定例理事会／一五時～一六時三〇分 日本出版クラブ会館
 - 七月三日（水）七月臨時理事会／一二時～一三時 東京ビッグサイト
 - 七月二八日（木）七月定例理事会／一五時～一六時三〇分 日本出版クラブ会館
 - 八月七日（水）八月定例理事会／一七時～一八時三〇分 椿山荘・錦水
 - 八月二七日（火）臨時理事会／一三時～一五時 日本出版クラブ会館
 - 九月二九日（木）九月定例理事会／一五時～一六時四五分 日本出版クラブ会館
 - 一〇月一七日（木）一〇月定例理事会／一五時～一六時四五分 日本出版クラブ会館
- 常務理事会
 - 九月二三日（金）一七時～一八時 學士會館

●専門委員会

- ・六月二日(水)販売・出展委員会／一六時～一七時 文化産業信用組合
- ・六月二日(金)広報委員会講演会小委員会／一〇時～二時 コロナ社会議室
- ・七月二日(火)監事会／二時～四時 文化産業信用組合
- ・七月二日(金)販売・出展委員会東京国際ブックフェア運営委員会／九時三〇分～一六時 文化産業信用組合
- ・七月二日(金)販売・山展委員会／一六時～一七時 文化産業信用組合
- ・七月二日(水)広報委員会／一六時～一七時三〇分 コロナ社会議室
- ・七月二日(水)広報委員会／一六時三〇分～一七時三〇分 コロナ社会議室
- ・七月二日(木)研修委員会／一三時三〇分～一四時三〇分 日本出版クラブ会館
- ・七月二日(木)総務委員会／一四時～一四時五〇分 日本出版クラブ会館
- ・七月二日(火)税制・再販流通特別委員会／一五時～一七時 医学書院会議室
- ・七月二日(木)著作・出版権委員会／一五時～一七時 日本出版クラブ会館

■事務局だより

■年末会員集会・懇親会開催のお知らせ

今期より会員の皆様へ活動方針のご説明の機会を増やしてまいりたいと、まずは年末会員集会を設定させていただきました。その後、恒例の懇親会を開催致します。懇親会には、会員社の代表者様はもとより、関連団体代表者及び当協会専門委員会委員の皆様にもご参集いただきまして、この一年の締めくくりと、相互交流を深め

る一夕にしたいと思っております。多くの方のご出席をお待ちしております。

- ・十二月五日(木) 東京會館二階
- 年末会員集会…一六時三〇分～一七時三〇分「エメラルドルーム」
- 年末懇親会…一八時より「ゴールドルーム」

「届出事項変更届」の書類が、協会ホームページのトップ画面【会員社向けページ】よりダウンロードしていただけるようになりました。ぜひご利用ください。

〈代表者・当協会代表者変更〉

- 株式会社鹿島出版会
旧代表者…鹿島光一
新代表者…坪内文生
- 株式会社日本臨社
旧代表者…河内秀明
新代表者…瓦谷秀治
- 株式会社メジカルビュー社
旧代表者…浅原実郎
新代表者…鳥羽清治
- 〈当協会代表者変更〉
- 一般社団法人家の光協会
旧代表者…柳楽節雄
新代表者…下川正志
- 〈住所変更〉

●一般財団法人東京大学出版会

- 旧住所 東京都文京区本郷七-三-一
- 新住所 東京都目黒区駒場四-一五-二九
- 新電話 ○三-六四〇七-一〇六九
- 新ファクス ○三-六四〇七-一九九一

自然科学書協会講演会二〇二三報告

七月二日(日)、日本出版クラブ会館にて、自然科学書協会講演会二〇二三が、昨年を上回る二二名の参集者を得て開催されました。開会にあたり、牛来広報委員長(当時)が、当協会の活動紹介を交え挨拶した後、講演会が始まりました。

一つめの講演は、桜美林大学リベラルアーツ学群教授・芳沢光雄氏による「生きた題材で数学を楽しもう」。ほぼ満席状態の会場に驚かれながら講演が始まりました。

まず、数学には代数学、解析学、幾何学など様々な分野とアプローチの方法があることを説明。まず構造的な発想でアプローチした例題をいくつか解説されました。

最初に誕生日当てクイズ。「生まれた日の十倍」に「生まれた月」を加え、その結果を二倍し「生まれた月」を加えた数値から誕生日を導き出すことができるというもの。数式は、 $(y \times 10 + x) \times 2 + x \parallel 3x + 20y$ で表され、 y (日)はこの計算結果を二〇で割った数、その余りを三で割った数が

x (月)となることを説明。数人の参加者の計算結果から誕生日を当てるパフォーマンヌも披露されました。また、「あみだくじ」の「スタートする地点が異なれば、辿り着く先は必ず異なる」性質を利用し、「辿り着く先をどのようにも仕組むことができる」方法を解説されました。このほか、変化の発想、図形の発想、統計の発想など、様々なアプローチ方法で数学を楽しく学べるよう、例題を通して解説いただきました。

■第六三期/第六四期広報委員

〈担当業務理事〉

- 宮部信明(岩波書店)
- 牛来真也(コロナ社)
- 委員長
- 古原 隆(家の光協会)
- 桑原正雄(岩波書店)
- 竹西素子(オーム社)
- 稲沢 会(共立出版)
- 矢吹俊吉(講談社サイエンティフィック)
- 大井隆之(コロナ社)
- 松田和貴(電気書院)
- 遠矢良太郎(南江堂)
- 増田素美(丸善出版)

編集後記

大人気を博したNHKの朝の連ドラ「あまちゃん」が最終回を迎え、多くの人たちが「あまろく症候群」になっているとのこと。ご多分に漏れず私もその一人。クドカンの小ネタ仕込みや劇中八〇年代に流行したモノが登場したりと、毎朝懐かしくも楽しんでました。

私は一九六五年生まれ。以前は前年に開催された東京オリンピックを見ていないと答えるのが若さを誇る自慢であった。来春には、ついにわが社に史上初の平成生まれの新入社員が入ってくる。しかも私が入社した後に生まれたというからまさに「ジェー・ジェー・ジェー」。

二〇二〇年に二度目の東京オリンピックが開催されます。翌年に降に生まれた人々からは「私は東京オリンピック見てないです」なんて若さをひけらかす若者たちに、「あー昔はよかった」としみじみと言つつもりです。(M・G)



芳沢光雄氏

また現在、世界各国は二〇〇年まで気温上昇を四度に抑えることを目標としているが、四度の上昇でも、地球規模でイネや小麦など身近なものを含む生物種の重大な絶滅が危惧されており、非常に大きな問題であることを説明。人類は、農業革命、産業革命、情報革命と技術革新を続けてきたが、今こそ環境を軸とした新しい「環境革命」が必要であり、このためには、ハイウェイ（高速道路網）、スーパーハイウェイ（情報網）に続く、パワーハイウェイ（エネルギー網）を整備すべきであると説かれました。



山根一眞氏

た地球の美しい映像を見ながら、地球が宇宙に浮かぶ小さな閉じられた宇宙船であることを参加者全員に再確認させること

とから始まりました。その後、オクラホマの巨大竜巻被害や、中国の大砂嵐、二〇〇四年福井豪雨など、世界の様々な気象災害の映像を紹介。実際に世界各地の現場でご自身が見聞した情報を補いながら解説することにより、温室効果ガスによる環境への深刻な影響が実感できました。



会場風景

最後に、温暖化は地球規模の問題なので自分一人の力ではどうにもならない、と無力感に陥りがちだが、個人のアイデアと行動力が流れを変えることにもなる、と自身のエコハウス作りの経緯を紹介。「個人の小さなことでも、やってみてこそわかることがあるし、楽しいエコこそ普及する。皆さんも、ぜひ楽しいエコを心掛けてほしい」と参加者と呼びかけ、講演を結びました。

かけ、講演を結びました。
(家の光協会 吉原 隆)

自然科学書協会第六三期第一回総会報告

七月二八日（木）午後五時から、日本出版クラブ会館に於いて開催された、自然科学書協会第六三期第一回総会（決算総会）について報告いたします。

定刻、司会担当の長理事（研修担当）が開会を宣言し、次いで定款第二八条の定めに従い、総会議長（以下「議長」と略）に後藤理事長（当時）を指名しました。議長は登壇し、出席会員社数と議決権行使書による賛成会員社数を報告し、本総会が定款第二七条に定める定足数を満たしており、総会が成立していることを告げました。



議長を務める後藤理事長(当時)

続いて議長は定款第三二条二項に従って、議事録署名人二名を指名した後、議案審議に移りました。

第一号議案は「第六二期事業報告書案・収支決算書案ならびに公益目的支出計画実施報告書案承認の件」で、担当理事による

説明のあと議長は賛否を議場に諮り、満場一致をもって原案は承認可決されました。第二号議案は「役員任期満了に伴う新役員選任の件」で、議長は第六三・六四期の役員候補者名簿（二〇一三年六月十一日 役員候補者選考委員会決定）に基づき、理事・監事への就任の賛否を会場に諮り、これも満場一致をもって承認可決されました。



会場風景

議長は本総会における全議案の審議が終了したことを宣言し、出席者に対し、議事進行への協力を謝し、午後五時四五分閉会を宣言しました。

会員各位におかれましては、ご多用中にもかかわらず、総会にご出席くださいましたこと、感謝申し上げます。

以上、簡単ではございますが、総会のご報告とさせていただきます。

(前総務委員長 飯塚尚彦)